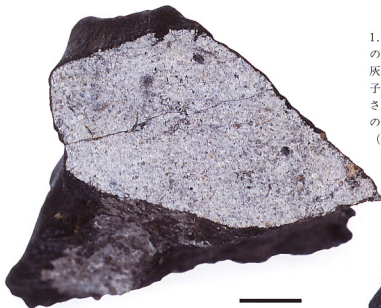


## つくば隕石

1996年1月、「松の内」の7日つくば市を中心に隕石が落下し、2月19日までに23カ所から総計約800グラムの隕石が回収された。この中から、最大のもの、最小のもの、破断面の見掛けの異なるもの等代表的な隕石を紹介する。(詳しくは本文53-54頁参照)〈地質調査所 地質標本館 豊 遙秋, 奥山(楠瀬) 康子, 佐藤芳治, 地殻化学部 富樫茂子, 木多紀子, 地質相談所 佐藤岱生〉



1.つくば隕石13号,つくば隕石最大ののもので177.5グラムに達する。割れ口は淡灰色で均質に見える。発見したのは、電子技術総合研究所の主任研究官伊藤順司さんのお嬢さん麗紗さん(8才)で最年少の発見者である。スケールバー=1cm(以下同じ)。

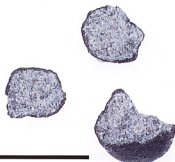


2.つくば隕石13号の表面, 溶融し波状紋のように見える黒色の皮殻におおわれている。



3.つくば隕石13号が発見されたつくば市並木近隣公園の松林、隕石は松の木に衝突し地面に落下したと思われる。破断面から、残りの破片の発見が期待される。

4.つくば隕石3号, 単一のものでは今回最小のもので1.37グラムで“鬼の糞”型であったが、屋根に当たった時に割れた。(発見者 横尾清美さん)





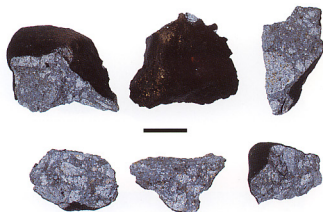
5.つくば隕石4号,地質調査所と目と鼻の先の電子技術総合研究所の駐車場で発見,一部破損しているが,ほぼ完全な形をしている,24.02グラム(発見者 児島宏明さん)



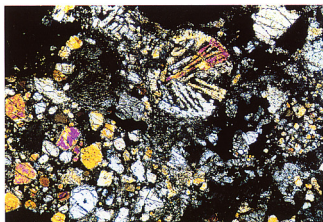
6.つくば隕石7号,つくば市稲荷前で発見,44.6グラム,中に含まれる鉄ニッケル合金が錆びたため褐色に見える,(発見者 大和田善孝さん)



7.つくば隕石2号,つくば市,蜜糸・昆虫農業技術研究所構内で発見されたもの,全体は10数個に割れている,角礫岩状の組織をもつもの,(発見者 小山朗夫さん)



8.つくば隕石11号,つくば市西大沼で発見,4グラムから21グラムまでの破片,このほかに総計約15グラムの細片をとまなう,2号と同様に角礫岩組織をもつ,(発見者 松本 茂さん)



9.つくば隕石11号の偏光顕微鏡写真(クロスニコル左右10ミリ),肉眼で暗色に見える基質はかんらん石と斜方輝石の急冷結晶からなるコンドールと自形かんらん石の結晶などから構成される,



10.つくば隕石11号は市道の側溝または歩道との境界のコンクリートの縁石に沿って発見されたものが多く,隕石は写真の左手後方から路上に落下したと考えられる,一部は芝生上でも発見された,